



西ヶ原防災まちづくりのあゆみ

今年度は、新型コロナウイルスの感染症拡大状況により、協議会の開催が困難な状況でしたが、西ヶ原の防災まちづくりについて振り返る契機と捉え、皆様のご意見を伺いながら本ニュースを発行いたしました。



平成20年度 まち歩きの報告会



平成22年度 西ヶ原みんなの公園開園式



平成30年度撮影 満開の河津桜



平成22年度 ビオトープ観察



移転前の東京外国語大学



東京外国語大学記念碑



令和元年度 防災訓練



平成30年度 防災炊き出し訓練

地区の沿革

◆ 位置

- 西ヶ原地区は北区の南端に位置し、南側は豊島区と接しています。
- 地区の北西側には都電荒川線（東京さくらトラム）が走り、電停2か所が接しているほか、西ヶ原駅（東京メトロ南北線）、西巣鴨駅（都営三田線）などが徒歩圏内にあり、電車による都心へのアクセスが良い地域です。

◆ 歴史



- 西ヶ原地区は明治末期までは一面の農地が広がっている地域でした。
- 明治中期頃から、北区内への大規模な軍事関係施設の進出が相次ぎ、現在の西ヶ原みんなの公園（以下「みんなの公園」）の場所に、海軍火薬庫（下瀬火薬製作所）が置かれたほか、明治44年には王子電車（現在の都電荒川線、大塚～飛鳥山間）が開通しました。
- そうしたことを契機に、大正期に入ると滝野川・西ヶ原一帯の市街化が進み、大正12年の関東大震災後には都市部から人口が流入し、宅地化が急速に進展し、昭和19年には海軍火薬庫跡地に東京外事専門学校（現東京外国語大学）が移転しました。

◆ 多くの課題を抱えた木造住宅密集地域

- 昭和20年の東京大空襲では、地区一帯は壊滅的な被害を受けましたが、計画的な復興がされず、もとの道路のまま市街化が進行し、木造住宅密集地域が形成されました。
- このような木造住宅密集地域は、日常の生活環境のみならず、災害時の火災の広がりやすさ、建物の倒壊のしやすさ、避難や消防活動の困難さなどの防災上の課題を抱えています。

◆ 東京外国語大学西ヶ原キャンパス移転を契機としたまちづくりの機運向上

- 昭和63年に東京外国語大学の移転が閣議決定し、平成7年には平成12年から3か年で府中市への移転計画が公表されました。
- 平成11年から北区と都市基盤整備公団（現UR都市機構）との共同で跡地利用の検討が開始されました。
- 平成15年7月北区は、周辺密集市街地の改善にもつなげる、防災公園を中心として、高低差を解消し周囲のどこからでも避難可能とする外周道路、福祉施設、ファミリー向け住宅の整備などからなる跡地利用計画（右図）を発表しました。



まちの動きと協議会活動のあゆみ

・西ケ原地区のまちづくりでは、平成13年に市街地復興セミナーを開催するなど、早くから防災性の向上を中心に近隣の皆さんのご意見を聞きながら検討を進め、地域の有志による自主的な活動も生まれました。

・さらに、東京外国語大学跡地（以下「外語大跡地」と）と周辺の木造住宅密集地域において、密集事業（現住宅市街地総合整備事業）の計画づくりのワークショップ、防災公園や外語大跡地外周道路の計画のワークショップなど、地区の皆さんの参画を得て検討を進めました。

・そうした動きを継続し、地区の皆さんがより主体的にまちづくりに取り組んでいくための「西ケ原まちづくり協議会」が、平成17年11月に発足しました。

・「西ケ原まちづくり協議会」では、密集事業を軸としたまちの動きに合わせ、ワークショップや勉強会、そのほか地区の皆さんとの交流の機会作りなどに取り組んできました。



道路や小広場をどのように配置・整備すべきか、地域の皆さまと検討を重ね、密集事業の計画に反映しました。

H15 密集事業計画づくりワークショップ



年度	協議会活動	まちの動き
H17	西ケ原まちづくり協議会設立	密集事業開始
H18	ピオトープ見学会	防災生活道路3・4号線、主要生活道路1・2号線沿道アンケート実施
H19	外語大イメージ継承施設用地開放（暫定利用）	新たな防火規制を導入
H20	まち歩き（まちの問題点検）	飛鳥晴山苑オープン 外語大跡地外周道路竣工
H21	バリアフリーマップ作成ワークショップ	外語大跡地住宅完成 公園名称募集（みんなの公園）
H22	みんなの公園利用マナー集作成	みんなの公園開園式
H23	西ケ原小学校での避難所運営訓練	（東日本大震災）
H24	公園ワークショップ（西部つどい広場）	3号線沿道権利者への周知活動
H25	まちづくりルール勉強会	西ケ原南保育園開園
H26	西部つどい広場開園	まちづくりのルールアンケート
H27	公園ワークショップ（道音坂児童遊園）	密集事業区域拡大
H28	まちづくりルール（地区計画）勉強会	地区防災不燃化促進事業開始
H29	公園ワークショップ （谷戸さんさん児童遊園）	地区計画導入
H30	谷戸さんさん児童遊園開園	地区防災不燃化促進事業対象拡大
R1	みんなの公園10周年イベント検討会 道音坂児童遊園開園	



H31.3 谷戸さんさん児童遊園開園式



H21.11 バリアフリーマップ作成ワークショップ

例)バリアフリーマップによるGIS学習

発見、気づき → 本来の目的：対策、実行計画を考える
これだけで終わらせない → 地理空間情報の使い方を学ぶ

参加者：パソコンが操作できる人 最低3名1グループ

用意するもの

- 1) メモ
- 2) 車イス
- 3) パソコン（インターネットに接続できる）
- 4) 小型GPS+地理ソフト
- 5) カメラ付き携帯電話
- 6) microSDカードリーダー
- 7) 入門用GISソフト

GOAL

これまでのまちづくりの成果



住民の方々による多様な自主活動

◆ みんなの公園ビオトープ（自然観察園）

- みんなの公園をつくる際のワークショップで提案され、先進事例見学会や模型作りなどの検討を経て整備されました。
- 現在も自主管理グループの方々による、ビオトープを育て見守る活動が続いています。



ビオトープへの思い ～自主管理グループの方より～

西ヶ原自然観察園（ビオトープ）では開園以来の植生を継続的にモニタリングしてきました。

今の状態に至るまでに、2010年の開園直後の植栽と淘汰、2015年頃の外来種侵入防止と植生の安定化、2017年の上流の沢枯れに伴う乾燥化と、大きく3段階の過程を踏んでいます。

芝生広場と集合住宅に挟まれた場所でありながら、地域の皆さんの徹底した保全作業によって、在来種中心の多様な植生が維持されています。

今後、この環境を有効に活用していけると良いと思います。

ビオトープ自主管理グループ 清水さん

みんなの公園ができてから10年が過ぎ去りました。私はその頃ビオトープに興味をもっており、あちこちの公園や学校を見学して歩きました。

その中でみんなの公園の中にビオトープを造ろうということで有志が集まり、池に入れる生物又周りの植物等について話し合い育ててきたのですが池の中にはザリガニや金魚を入れる人が出てきたためトラップで捕まえて処分したり、植物については、外来種がはびこり取っても、取っても生えてくるのを夏の暑い中に刈り取ったものです。

現在はかなり落ち着き年2回ぐらいの作業をしています。

ところが我々も年を重ねてきますと身体が思うように動かなくなり後任の人がいればと考えております。

ビオトープ自主管理グループ 宮澤さん

西ヶ原の防災まちづくりとともに、様々な自主的活動が住民の方々により展開されてきました。

◆みんなの公園でのイベント

- 自治会・町会の方々が主体となり、みんなの公園を利用し、炊き出し訓練や消火訓練、夏休みのラジオ体操やもちつき大会など様々なイベントが行われてきました。

令和元年夏 炊き出し訓練



令和元年秋 消火訓練



令和元年夏 夏休みのラジオ体操



平成30年 年末 もちつき大会



◆西部つどい広場 花壇自主管理

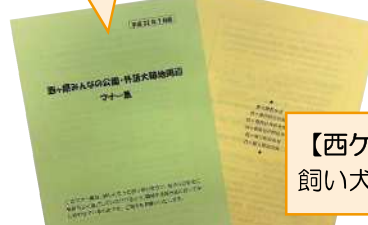
- 公園ワークショップをきっかけに、周辺の方々が花壇の自主管理を行っています。



◆みんなの公園のマナーを守る活動

- だれもが気持ちよく公園を利用できるよう、マナーを広める活動がされています。

【みんなの公園マナー集】
周辺自治会の申し合わせ事項として作成。公園管理事務所
で配布中。



【西ヶ原みんなの公園愛犬クラブ】
飼い犬のマナーの向上、見守り活動



西ヶ原のまちづくりへの思い

安心・安全なまちづくりのためには、今後もまちで暮らす方々がまちを気にかけて、まちへの愛着を深めていく活動を続けることが大切です。

これまでのあゆみを振り返り、西ヶ原のまちづくりやみんなの公園に対する思いなど、まちの方々からお寄せいただきました。

皆さんそれぞれが個性を持つところにお住まいになることから、環境に対する感性もまちまちだと思います。

それぞれの価値を持った人々が自分たちの環境を守ろうということで集まり、立ち上げ前の協議会の集会では、外語大跡地はこうあってほしいと思いのたけを語りました。

しかしマンションができる、特養ができる、防災機能を持つ公園ができるという全体像の方針を聞き、参加者の意思がこだわりの個人の思いから、地域全体への思いに大きく変わっていきました。

『この公園は、既存の居住者たちだけの公園ではなくて、新しく住む人々や、施設に入られる方々とも一緒に利用するみんなのもので、みんなの公園なんだ。』そんな思いが協議会メンバーに浸透し、「みんなの公園」という名称になりました。

一人が思い、互いに語り、情報を共有し、協働してみんなで住みやすい環境を目指していく。そのような連帯感が生まれた感じがしました。

西ヶ原西部自治会 下出さん

西ヶ原まちづくり協議会から誕生した自然観察園はボランティア活動により、この10年間で観察会を705回実施し、延べ18,127人の見学者が訪れました。

開園から毎年カモ・ツバメ・サギ・キジバトの来訪が有り、池にはトノサマガエルやヒキガエル更に、日本メダカ・クチボソ・フナ・タナゴや水生生物のヤゴ・沼エビやカワニナ・タニシ・モノアライ貝等の生息が確認されております。これからもこの自然を静かに見守ってください。

西ヶ原三和自治会 伊藤さん

今から約22年前に西ヶ原に転居してきましたが、ちょうどその頃に東京外国語大学が西ヶ原キャンパスから府中に移転したようです。

大学の周りは高いブロック塀が囲み、決して安心して歩ける感じではありませんでした。

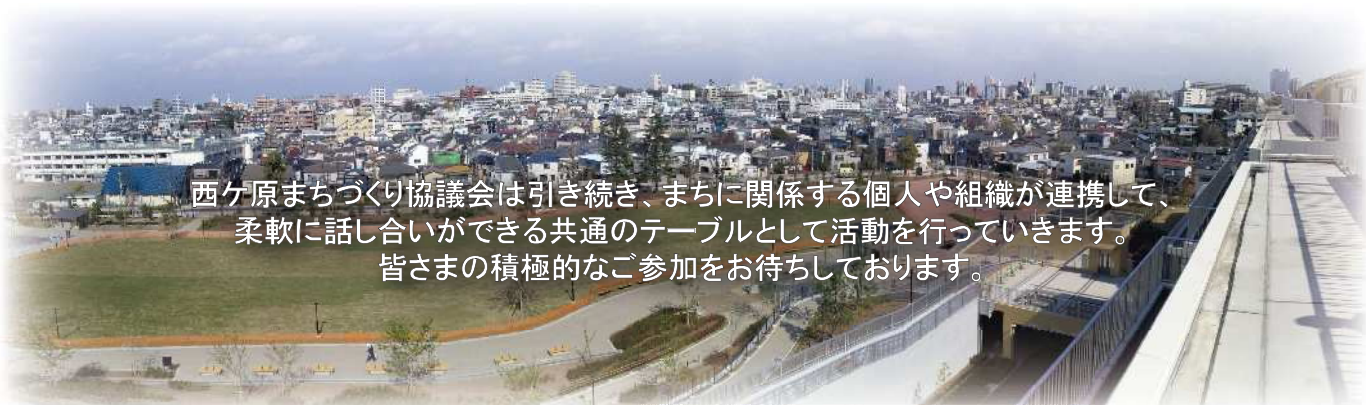
ただ唯一の楽しみは小学校の息子が日曜日に閉鎖された大学のグラウンドを貸し切り、少年野球をしていたことでした。

そんな大学跡地に飛鳥晴山苑ができ、そして西ヶ原みんなの公園が出来ました。

間もなくしてして飛鳥晴山苑で働くようになり、通勤は自宅から徒歩で公園を横断します。

四季を感じる公園は仕事のストレスを解消してくれます。休みの日はお弁当を持参しピクニックを楽しむ事もあります。世代を問わずくつろげる公園になったと感じています。

社会福祉法人晴山会 君野さん



西ヶ原まちづくり協議会は引き続き、まちに関係する個人や組織が連携して、柔軟に話し合いができる共通のテーブルとして活動を行っていきます。皆さまの積極的なご参加をお待ちしております。

連絡先：東京都北区まちづくり部 まちづくり推進課
TEL:03-3908-9154 FAX:03-3908-2244